

第24話「新たなスタート」

課題	自分の気持ちを的確に表す日本語の表現がわからない
ストラテジー	周りの人に確認しながら新しい表現を使ってみる
効果	- 自分で言葉を組み合わせてクリエイティブに自分の気持ちを表現することができる - コミュニケーションに積極的に関わり、自立した言語話者に近づく

<課題>

自分の気持ちを的確に表す日本語の表現がわからない



スアンは、麗にこれまでの感謝の気持ちを伝えようとしていましたが、自分の気持ちを的確に表す日本語の表現がわからず、言葉につまってしまいました。

<ストラテジー使用場面>



スアン: 麗さんが私を押してくれていたんです。

…で大丈夫ですか。

麗: 背中を押す。

スアン: ああ、背中…そう、

麗さんが背中を押してくれていたんです。

スアン: 言いたいこと全部言えました。

これで、私の心に忘れ物はありません。

…で大丈夫ですか。

麗: 「心に忘れ物はない」、いい表現だな。

<スアンが使ったストラテジー>

周りの人に確認しながら新しい表現を使ってみる



困ったスアンは、やんすに助けてもらおうとしました。しかし、やんすが出てこなかったもので、スアンは、自分で言葉を組み合わせて、スアン独自の表現で自分の気持ちを表現してみました。ただ、麗に伝わったか心配だったので、「…で大丈夫ですか。」と確認しました。

<どんなストラテジー？>

ドラマの中で、スアンは自分の気持ちを表現する日本語がわからず困っていました。これまで、困ったときはやんすに手伝ってもらっていましたが、今回のスアンは、今まで出合ってきたことばを思い出して、それを組み合わせて、スアン独自の表現を試しに試してみようというストラテジーを使いました。

スアンは2回ストラテジーを使っています。1回目は「麗さんが私を押してくれていました。」という部分です。「麗にはげまされていた、勇気づけられていた」ということを言いたかったスアンは、「私を押してくれていました」と表現しました。日本語には、はげます、促す、勇気づけるというような意味で「背中を押す」という表現があり、スアンは日本で生活している間にこの表現を聞いたことがあるのかもしれませんが、「背中」がないせいで不自然な表現になりましたが、スアンはどこかで聞いた日本語を自分のものとして使ってみようとしたのです。

2回目は「私の心に忘れ物はありません。」という部分です。スアンは、「麗に言いたかったことを全部言うことができた」、「後悔はない」という気持ちを伝えるために、「私の心に忘れ物はありません」と言いました。「心に忘れ物はない」という表現は日本語でよく使われる表現ではありません。しかし、スアンは、自分で考えた独自の表現で、麗に自分の気持ちを伝えようとしたのです。

このように、2つの場面は、どちらもスアンが「こういう使い方をしたら気持ちを表現できるんじゃないかな？」と考えて日本語を使ってみたという場面です。自分の気持ちを表す的確な日本語を知らなくても、スアンのように自分で言葉を組み合わせて日本語を使うことで、気持ちを伝えることができます。

このような独自の表現は、言いたいことが十分に伝わらなかったりすることもあります。しかし、それを怖がって伝えるのをあきらめるよりも、スアンのように、「…で大丈夫ですか。」と確認してフィードバックを受けながら、伝えて、学んでいきましょう。

自分が正しいと確信が持てる言葉を使うことだけではなく、「こう言えば伝わるんじゃないかな」、「こういう使い方をしたら表現できるんじゃないかな」と考えて、的確じゃなくても自分で言葉を組み合わせて使ってみることが大切です。そして、それに対するフィードバックを受けて、修正していくというプロセスが、日本語の上達のためにとても重要なのです。

<どうやって使う？>

日本語を話しているとき、自分の日本語が正しいのか、正しくないのかということが気になってしまったりかもしれません。もちろん正しく話すということも大切ですが、どのように表現したら相手に伝わるかということを考えて、自分なりに試してみようということが大切です。

では、どうすれば「自分なりに試してみる」ことができるでしょうか。例えば知っている言葉を組み合わせたり、自分の母語にある表現を参考にそれを日本語に直してみたり、周りの人が使っている表現を自分でも使ってみる、ということが考えられます。このように、自分が知っている日本語や身の回りから得た知識などのリソースを活用することで、「自分なりに試してみる」ということができます。

ただ試してみるだけではなく、その後、自分の日本語がどうだったかふりかえりましょう。相手の反応や表情から自分の日本語が伝わったのか、伝わらなかったのかということがわかります。

もちろんそれだけではわからないこともあります。そのようなときは、スアンのように直接「…で、大丈夫ですか。」と相手に尋ねて、フィードバックをしてもらいましょう。

＜もう一歩＞ ストラテジーがあなたの力をひきだす鍵！

「スアン日本へ行く！」では24のコミュニケーションの課題を取り上げ、24のストラテジーを紹介しました。ドラマを通して、スアンはどのように変わったのでしょうか。

はじめは、スアンが困ったときにやんすがアドバイスをしたり、勇気づけたりしていました。しかし、最後のほうには、スアンは自分から話し合いをまとめようとしたり、自分で言葉を組み合わせて独自の表現を使ってみたりするなど、自分から積極的にコミュニケーションに関わる、自立した言語話者になりました。ストラテジーを使ってコミュニケーションの課題を解決していくことを繰り返してきた結果、スアンは、だれかに言われた通り、どこかで学んだ通りのコミュニケーションではない、「自分らしいコミュニケーション」をするようになったということです。

コミュニケーションの課題に出合ったときは、ぜひ、これまでに紹介したストラテジーを活用してみてください。しかし、現実にはドラマとは異なる課題に出合うことがあります。そこで大切なのは、その課題を乗り越えるにはどんなストラテジーが使えるかを考えることです。自分で考えて、ストラテジーを使ってみて、一つ一つのコミュニケーションの課題に取り組んでいくことが、自分らしいコミュニケーションができる日本語話者として成長していくための大切なステップになります。つまり、ストラテジーがあなたの力をひきだす鍵となります。ストラテジーを活用して、自分らしいコミュニケーションができるようにチャレンジをしていきましょう！